環境保全協定に基づく「環境保全計画書」

1． 環境保全に関する基本方針（キリングループ環境方針）

キリングループは、社会課題の解決による事業の持続的成長を経営の根幹に据え、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

2．2026 年度キリングループ環境目標

(1) 生物資源

・RA 認証紅茶農園※1 産原料、FSC 認証紙※2、RSPO 認証パーム油※3 の使用継続・拡大
・スリランカの紅茶農園、ベトナムのコーヒー農園への環境再生型農業への移行支援・拡大
・ヴィンヤードでの自然共生サイト※4・ネイチャーポジティブ※5 の維持・拡大、自然を基盤とした農業の解決※6 に向けた研究の開始・継続
・品質管理精度向上と需給予測精度向上による原料・半製品・製品廃棄発生量の削減

(2) 水資源

・渇水等リスクに備えた用水削減と適切な循環利用の維持・推進
・水源の森活動、清掃・美化活動の推進
・スリランカ紅茶農園内の水源地保全活動の継続

(3) 容器包装

・３R（Reduce・Reuse・Recycle）＋Renewable※7 に配慮した容器包装の開発・採用等の継続・推進
・プラスチックポリシー実現に向けた、資源循環※8、ワンウエイプラスチック削減及び他の素材（リサイクル樹脂、バイオマス）への代替、単一素材化、PET ボトルの持続性向上※9 推進
・海洋流出プラスチックの削減推進（啓発活動や海岸清掃活動等）

(4) 気候変動対応

・SBT1.5℃目標 ※10 へ対応した GHG（温室効果ガス）の排出量削減（特に、2030 年 Scope3 目標※11 に向けた Scope3 排出量の削減推進・実施体制の構築・運用方針の整理を強化）
・RE100 ※12 の達成に向けた再生可能エネルギーの導入
・TCFD ※13 にもとづくシナリオ分析結果（農産物収量減、洪水/渇水リスクなど）への中長期的な対応検討及び集中豪雨、洪水等の設備対応、オールハザード型 BCP への反映

(5) 廃棄物の発生抑制と再資源化

・工場での再資源化率、未使用の販促品・POP の廃棄物発生抑制の維持・推進
・廃棄物の安定処理委託先確保

(6) マネジメントシステム改善と重大環境事故ゼロの継続

・工場間相互監査の継続、営業拠点等でのセルフチェックシートによる自主的運用への移行推進
・環境法令（廃掃法、フロン排出抑制法、PCB 特措法、水濁法等）順守体制の維持・向上
・廃棄物管理担当者への教育継続
・廃棄物処理委託先現地確認（現地監査）の計画的な実施
・是正処置、予防処置の確実な実施と水平展開

(7) 非財務情報開示への対応・環境コミュニケーションの推進

・TCFD/ISSB※14、TNFD※15 等が求める先進的な課題への対応と適切な開示による高い ESG 評価の獲得・維持
・商品を通じた環境課題解決とキリン・商品ブランドへの信頼感醸成につなげる外部コミュニケーション（若年層対応含む）推進

以上の目標に関連する具体的な KPI である非財務目標及び CSV コミットメントの達成に向けて取組みを進める。

2026 年 1 月 1 日
キリンホールディングス株式会社　代表取締役社長
南方　健志

<注釈>

(1) 生物資源

（※1）RA 認証紅茶農園：スリランカのレインフォレスト・アライアンス（Rain forest Alliance）認証を取得している紅茶農園。

（※2）FSC 認証紙：FSC（Forest Stewardship Council、森林管理協議会）の基準を満たしていると認められた紙を使っている紙製容器包装、及び事務用紙。

（※3）RSPO 認証パーム油：RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油のための円卓会議）の基準を満たしていると認められたパーム油。Book&Claim で対応。

（※4）自然共生サイト：国連生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）で採択された各国の陸・海で 30%を自然保護区域にする新目標達成のために環境省が創設した認証制度。

（※5）ネイチャーポジティブ：2021 年 G7「自然協約」で合意された、「2030 年までに生物多様性の損失を止めて反転させる」目標。

（※6）自然を基盤とした農業の解決：国際自然保護連合（IUCN）が提唱した、気候変動を含む社会課題に自然を活用して解決する考え方。ヴィンヤードでは、畑への GHG 固定、病害の早期検知等の農研機構との共同研究を実施予定。

(3) 容器包装

（※7）3R（発生抑制・再使用・再生利用）＋Renewable（持続可能な資源）

（※8）PET ボトルの資源循環推進（使用済み PET ボトルの効率的な回収とリサイクル樹脂の活用と、これに向けたケミカルリサイクル事業の推進）

（※9）PET ボトルの軽量化、及び石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来の PET ボトル樹脂導入。

(4) 気候変動対応

（※10）SBT1.5°C 目標：Science −based Target （産業革命前からの平均気温の上昇を 1.5℃未満に抑え、2050 年にはカーボンネットゼロとする目標）

（※11）Scope3 目標：Scope3 は自社活動による排出を除いたサプライチェーン全体の排出量を指す。※10 の SBT1.5°C 目標のマイルストーンとして、2030 年にグループ全体の排出量の 30%削減（2019 年比）することをグループとしてコミットしている目標。

（※12）RE100：Renewable Energy 100%（自社の使用エネルギーを 100%再生可能エネルギー起源にする目標）

（※13）TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures （気候関連財務情報開示タスクフォース）

(7) 環境コミュニケーションの推進

（※14）ISSB：International Sustainability Standards Board （国際サステナビリティ基準審議会）

（※15）TNFD：Task Force on Nature-related Financial Disclosures （自然関連財務情報開示タスクフォース）

２．　行動指針

事業活動のあらゆる側面で、環境に関わる社会課題の解決を経営の最重要課題の一つとして高い目標を設定し、トップのリーダーシップと従業員の全員参加で取り組みます。

(1)　コンプライアンス
私たちは事業活動に関連する環境の法規制・協定及び自主管理基準について、高いモラルで順守します。

(2)　技術開発
私たちは革新的な技術や手段を創出・導入するとともに、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働して持続的に課題解決に取り組みます。

(3)　環境マネジメント
私たちは環境マネジメントシステムを構築し、経営戦略と連動させて継続的に改善します。

(4)　人財育成
私たちは自社およびその枠組みを超えて社会全体に、環境にポジティブな影響を創出し、実行できる人財を継続的に育成します。

(5)　コミュニケーション
私たちは透明性、信頼性の高い情報を発信し、広くステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

３．　環境に配慮した容器包装等設計基本方針

(1) 目的
地球の豊かなめぐみと環境を持続的なかたちで将来につなぎ、お客様と社会全体に価値を提供し続けるために、法令ならびに「環境に配慮した容器包装等設計指針」を遵守することにより、持続可能な容器包装の開発・普及、営業活動における廃棄物の削減およびリサイクルの推進を通して、資源循環システムの構築に貢献します。

(2) 容器包装の開発・設計・採用の基本的考え方
① 開発・設計に当たっては、内容物の品質保持・安全衛生と容器包装自体の安全性、製品情報の適正表示を前提に、環境適性、お客様の使いやすさ、輸送効率ならびに経済性を考慮する。
② 採用に当たっては、さらにお客様の購入・飲用形態、販売形態および内容物の特性に応じたものを選択する。

(3) 容器包装の開発・設計・採用に当たっての環境配慮の考え方
① 調達からリサイクルまでの容器包装のライフサイクル全体での環境負荷低減を図り、自然環境への影響を最小限に抑える。
② 資源有効利用、循環型社会の実現に寄与するために、リサイクルや廃棄が容易で環境負荷の少ない素材、再生可能資源を使用した素材を使用する。
③ 脱炭素社会の実現に寄与するために、容器包装製造および商品輸送工程でのエネルギー使用量および温室効果ガス発生量の少ない素材を選定する。
④ 廃棄処理時の環境汚染防止に配慮した素材を選定する。
⑤ 3R（発生抑制・再使用・再生利用）＋Renewable（持続可能な資源）は、次項に従って推進する。

(4) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）＋Renewable（持続可能な資源）推進の指針
① 発生抑制（Reduce）
・容器包装及び販売促進用ツール等の軽量化に努め、材料の使用量の低減に努める。
・リサイクル時や廃棄時に、折りたたみ、押しつぶし等により、できるだけ体積が小さくなるように減容化に努める。
・簡易包装への切り替え、個別包装・外装の省略を推進し、包装の適正化に努める。
② 再使用（Reuse）
・再使用および再充填の回数ができるだけ多くなるように努める。
・再使用および再充填に係る環境負荷ができるだけ少なくなるように努める。
③ 再生利用（Recycle）
・再生使用（水平リサイクル）を増やすように努める。
・できるだけ単一素材を使用し、2 種以上の素材を使用する場合は、容易に分離が可能となるように努める。

・再生された素材および再生品使用比率の高い素材を使用するように努める。
・分別排出、分別収集、選別を容易にする仕様・デザインに努める。

④ 持続可能な資源（Renewable）
・持続可能性が担保されたバイオマス由来の素材を使用するように努める。

４． エコファーストの約束

https://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/assets/pdf/200624a_r030201.pdf

５． キリンビール神戸工場の環境方針

神戸工場はクループ環境目標及び、行動指針に基づき環境保全活動を次の通り推進します。

① 環境汚染物質の流出による工場外環境汚染を防止するため、流出防止訓練を行うと共に、訓練内容の向上に努めます。
② 温暖化ガス（ＣＯ２・フロンガス等）と用水使用量の削減に努めます。
③ 廃棄物の発生量削減と分別の徹底及び、法令遵守を含めた工場で働く メンバーへの環境教育を継続します。
④ 水源の森活動などのＣＳＶ活動を通じて、ＣＳＶ先進企業を目指し地域の環境活動に貢献します。

2026 年 1 月 1 日

キリンビール㈱ 神戸工場 工場長

笹崎 博之